

令和6年度 藤枝順心中学校・高等学校 学校評価(年間) (評価規準 A:十分に実践されている B:ある程度実践されている C:不十分である D:分からない)

建学の精神 女性の自律・自主と先度他の心の涵養						
教育目標 白梅精神のもと、「清楚な生徒」、「芳香を発する生徒」、「忍耐のできる生徒」を育てる。						
本年度の重点目標 ①生きる力の育成 ②個々の適正に応じた進路指導 ③社会生活に適応する力の育成 ④積極的な情報発信 ⑤自己管理の育成 ⑥危機管理意識の高揚						
重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
1 生きる力の育成	I C Tを活用した教育環境の整備	(1) 具体的方策 高校生も生徒1人1台タブレット導入に向けて、Google Classroomを活用し、生徒が授業を通してスマートフォンやタブレットを活用した教育活動に取り組める環境を整備する。	B	- 指標については週に3回以上設けることができた教員は23.5%だった。前期は15%だったので使用頻度が増えている。 - 探究の授業では必ずスマートフォンを使用するが、教科の授業で週に1回必ず使用するわけではないので週に3回以上設けることができていない。他の教科も含めれば生徒は週に3、4回は使用していると思われる。 - 中学校では意味調べや便覧の代用として使用。スタディサプリを毎週実施(木曜学習会) - 中1の1人1台タブレットは良く取り組めていたと感じた。教職員のICT研修が必要。 - オーストラリアの修学旅行で、Google Classroomを活用することができた。教員とのやりとり、日本に残っている生徒とのやりとりがスムーズにできて良かった。 - Google Classroomを通じて連絡事項を伝えたり、アルバムを作成し共有したりした。 - 教科指導ではうまく活用できていないのが現状である。探究の授業ではパワーポイント作成や発表にあたり、パソコンやスマホを使い準備することができた。 - 教員がタブレットを使用した授業をできるよう研修をする必要がある。	B	「使用頻度が増えている」ということなので、先生方はタブレット導入に向けて、意識して取り組んでくださっている結果であると思います。 - 生徒はスマホ、タブレットを使いこなしているようですね。教員のスキルアップが評価を上げるポイントでしょう。 - 前回、ICT活用について使いこなせていない先生方の研修が必要とありましたが、今回も同じような回答に見受けられます。その方々に合った研修内容の見直しや、ここまでなら使えるなどの確認が必要かと思われます。 - Google classroomは、連絡事項のやり取りでは活用できたが、授業ではできないままでした。学年によって活用頻度がちがったのかもしれませんが、クラス全員がきちんとできる体制を整えていただきたいです。 - タブレット、スマホの活用が目的となつてはいけないと思います。あくまで、手段であるべきです。ICTを活用した方が授業効率や効果が上がると考えられた場合は、大いに活用すべきと思います。
		(2) 具体的指標 生徒が授業中にスマートフォンやタブレットを使用する場面を平均して週に3回以上設けることができた教員が 5割以上 : A 2割以上 : B 2割未満 : C				
	キャリア教育の充実	(1) 具体的方策 総合的な探究の時間で使用する探究プログラム(1・2年:Inspire High、3年:ぼらぶら)を有効に活用し、生徒が自分自身の強みや興味・関心などを把握し、進路選択を考える機会を作る。	A	- 探究プログラムの活用により、自分自身の進路選択を考えることができたという生徒は50.6%、まあできたという生徒は38.6%で合計は89.2%だったので7割以上だった。 - 高校2年生は探究の時間でInspire Highを活用し、主に職業について考えさせるために様々な職種の人の動画を見せしている。様々な職種を知ったり、そこで働く人の考え方を知ったりすることで進路について考える機会を作っている。また、ディスカッションすることでクラスメイトの考え(同世代の考え)を知ること、自分の考えを伝えることができるようになっていく。生徒にとって少しでも進路選択の際に影響を与えられるものになって欲しいと考えている。12月ごろからプレゼンテーションに向けての準備を始めた。最終的には自分の考えをプレゼンできるまで持っていきたい。 - 高校3年生はそれぞれが興味のあるSDGsについて調べ、パワーポイントを作成し、発表することができた。パワーポイントを作成するために、事前の調べ学習がとても大切で、学級に対してわかりやすく発表するために今まで以上に社会について考えるきっかけにはなった。進路選択に結びついた生徒はあまりいないと感じた。 - 総合的な探究の時間については他校の様子を聞きながら本校の特色を出せるような内容を検討していきたい。	A	- 進路選択や職業について考えることはとても重要なことなので、学校でこのような取り組みをしていただくことで、生徒の意識も変わってくるのではないかと思います。また、早くから様々な情報を得ることができるので、今後もぜひ続けてほしいです。 - すばらしい取り組みです。自分の将来像が持てないとかではなく、興味がないから進路選択に結びつかないのではないのでしょうか。 - キャリア教育を実施するにあたり、職種の動画を見ることは、多くの職種を見ることができるメリットがあると思います。しかし、実際に生の体験、声を聞く機会はどれくらいあるのでしょうか。 - 探究プログラムの活用で進路選択を考えることはできなかったようです。物事を調べ、まとめ、発表するという学習は楽しかったようです。 - 将来のことを考え、決めるということは、まだまだ難しいと思いますが、女子校の中にも視野を広げほしいです。 - パワーポイントの作成について、今後仕事でプレゼンをする場があるかもしれないので、大変勉強になったようです。
		(2) 具体的指標 探究プログラムの活用により、 7割以上の生徒が進路選択を考えるきっかけとなった : A 5割以上 : B 5割未満 : C				

重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を 評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
2 第一志望 を目指さ せる指導	〔進学〕	(1) 具体的方策 ①国公立及び中堅以上の私大を総合型や推薦 で挑戦させる生徒を増やし、面接・小論文 指導をチューター制で実施する。 ②模試では得意教科を伸ばすところに重点を 置き、過去問題を活用させる。 ③スタディサブリを実施するにあたり、シラ バスを作成し、計画的な課題配信と確認を 行ない、受験指導でも活用する。	B	①第一志望校への合学率は88%であり、 四年制大学41名・短期大学1名・専門学校52名・海外留学1名であ った。その内、国公立大学1名・中堅以上の私立大学9名・ 看護専門学校3名、合格した。(R7. 2月末現在) ②全国偏差値50以上の人数 高1：国語10人・数学3人・英語4人 3教科総合2人 高2：国語9人・数学5人・英語2人・日本史3人・公共7人 生物1人・生物基礎1人・地学基礎2人 3教科総合2名・5教科総合1名 高3：国語7人・数学5人・英語6人/日本史8人・公共8人・化学1人 化学基礎3人・生物基礎9人・地学基礎8人・情報5人 得意教科で全国偏差値50以上の生徒が増えてきている。 ③スタディサブリ到達度テストは中学生 及び高1で正解率が60%を超えた。 高2・高3は国語の正解率が60%前後であるが、数学と英語で50% を下回った。	B	・面接、小論文指導において、チューター制を取り入れているとのことですが、来年以降も更にレベルアッ プした指導をしていただきたいです。 ・小論文について特別授業が行われたが、当日部活動で参加できない生徒が数名いたので、全員が聞けるよ うに指導していただきたいです。 ・国公立の推薦は厳しいと実感しましたので、小論文対策は3年生ではなく、もっと早めに始めた方が良い と思います。 ・美術デザインスタイルということもあり、授業だけでは共通テストは厳しいと感じ、入学してすぐに勉強 対策をしましたが、なかなか両立が大変でした。 ・教員共に熱意ある指導によって成果が現れることを切望します。
	進学実績 & 学力の向 上	(2) 具体的指標 ①国公立及び中堅以上の私大に10名以上合格 させる。(中堅私大とは河合塾全国偏差値 47.5以上の大学とする。) ②模試で全国偏差値50以上の生徒を、特進は クラスの50%以上、総進はクラスの10%以上 を目標とする。 ③全学年、スタディサブリ到達度テスト正解 率60%以上を目標とする。 達成項目3つ : A 達成項目2つ : B 達成項目0または1つ : C				
2 第一志望 を目指さ せる指導	〔就職〕	(1) 具体的方策 ①本校主催で行う5月の企業説明会、同友会 主催のオンライン企業説明会、昨年度の求 人票の提供など、生徒が企業情報を入手で きる機会を増やす。 ②昼休みなどを利用して面談を行い、生徒か ら志望企業を聞き、その企業の情報を提供 する。 ③求人票受付初日からの求人情報を7月5日 (金)に提供できるようにする。その後は2 日おきに求人情報を提供する。	B	・自分で就職先を決めたと実感できた生徒 1月に内定者全員(35人)に10項目のアンケートを実施し たところ、82.9%の生徒が実感できたと回答した。100% を目指していたが、かなり低い率となってしまった。特に会社見 学3社に対して満足していない生徒が9人おり、事前指導がもっ と必要であった。 この目標を立てたためか、1回目の就職試験で5人が不合格と なってしまった。5人のうち3人が2回目で、1人が3回目で、 もう1人が4回目で合格となった。助言はしてきたが、複数回不 合格となった生徒には申し訳ないことをした。全員の内定が決 まったのは1月であった。希望する会社を変更させる指導は行わ なかったが、不合格が増えたのは反省しなければならない。 また、8月上旬の受験希望先の提出日が早かったため、三者面 談で希望先を話し合えなかったなどの影響も出た。そのため、来 年度は若干遅らせる日程を組みたい。	B	・就職を希望するなら、入学時にすぐに希望する企業を選定して、2年かけて取り組むくらいでないと間に 合わない。早くから目標を定め、希望に近づく指導をお願いしたい。 ・これからITに押されて求人も減るかもしれないので、人でなければできないことを探し、そのためにど んな道を選ぶか考えなければならないと思います。 ・インターンシップ参加への呼び掛けをもっと活発にしてほしいです。ぜひ参加する生徒を増やすための工 夫をお願いします。また、参加希望の提出締切日に余裕がなく、希望することができなかった。また、案 内が少なかった。 ・不合格の原因はどこにあるのでしょうか。事前指導なのか、本人の力不足なのか、適性があっていなかつ たのか。 ・何回か不合格になってしまった生徒に対して、挫折したり、満足しないところを選んだりということがな いように、学校と家庭が連携してミスマッチにつながらないようにフォローしていくことが大事だと思い ます。 ・渉外活動に力を入れてほしい。また、卒業生からの体験談も必要に感じます。
	「自分で 選んで就 職先を決 めた」と 実感でき る指導	(2) 具体的指標 ①3年生就職内定者に対して、就職に関する 情報収集量や就職活動に関する10項目のアン ケート調査を行う。 ②アンケートは3年生就職希望者が全員内定 したら実施する。ただし、12月末までに全 員内定しない場合は、1月上旬に実施す る。 ＜評価区分＞ 実感できた生徒が100% : A 実感できた生徒が80～99% : B 実感できた生徒が80%未満 : C ＜実感の判断＞ ・1項目あたり3つの選択肢をつくり、選択 肢により1点～3点を配点する。 ・1人あたりの「実感」の判断 25～30点 : 実感できた 20～24点 : どちらともいえない 20点未満 : 実感できなかった		・1年生と2年生の就職指導 3年生の指導に時間をかけてしまったため、下級生の指導がお ろそかになってしまった。11月から説明会を行ったり、2年生 に問題集を購入させたりしたが、やはりスタートが遅かった。イン ターンシップに参加を希望する生徒も少ないので学年部の協力 を得ながら少しずつ参加する生徒を増やしていきたい。		

重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を 評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
3 社会生活 に適応する力の育成	「清楚・芳香・忍耐」の理解と実践	(1) 具体的方策 白梅精神に基づく教育目標「清楚・芳香・忍耐」の意味を理解させ、生徒一人ひとりが意欲的に取り組むことができるよう、初期指導やHRで目標を設定させる。	B	・Fujieda junshin check では、7割以上の生徒が「よくできた」「おおよそできた」と自己評価している。しかし、19項目すべてについて、生徒の多くが達成できている状態とはまだ言えない。 ・評価が甘い項目として挙げられるのは、学校内生活の、「忘れ物や予定確認」である。実態では忘れ物や確認忘れが目立つ。学校外生活については、「テレビや携帯、ゲームの利用時間が2時間以内である」という項目では、実態は2時間以上、使用している生徒が多く、計画的に制限することができていないことが分かった。これは前後期通して同じであった。 ・Fujieda junshin checkの10「困ったときには先生に相談できる」が現在1割強だが、生徒、教師の信頼関係をどのように築くかが、まず重要。そして指導を継続して、教育目標を理解する生徒を育てる。	B	・「清楚・芳香・忍耐」を理解させ、これを意識した指導方法は本校の特徴でもあり、礼法を身につけさせたいと願う保護者は多くいると思います。今後も引き続きご指導くださるようお願いします。 ・本人はどう感じているかわかりませんが、親から見れば、物事に意欲的に取り組んで、考えて行動できるようになったなと思っています。 ・生活面においては、家庭での指導が重要であると認識しております。 ・忘れ物、予定確認は本人の注意力不足であり、家庭においても注意をしてください。自分に厳しくすることは、基本中の基本です。 ・「難問題を教員に相談できる」は必須に思われます。互いの信頼関係を築くために、是非一丸となつてご指導ください。 ・困った時、担任先生にはとても頼っており、信頼関係の面では大変満足しております。
		(2) 具体的指標 学期終了時に生徒指導課の反省表を記入し、振り返りを行う。「よくできた」「おおよそできた」と自己評価する生徒が 7割以上 : A 5割以上7割未満 : B 5割未満 : C				
	礼法・学校規則の理解と遵守	(1) 具体的方策 講話をはじめとする礼法・学校の規則・社会ルールについて初期指導やHRを通して理解させ、遵守させる。	B	・講話の感想は書かせることで終わらせず、HR等で活用していく。 ・順心生だから信頼できるという生徒を増やしていく。 ・講堂への移動、教室の管理はだんだんできている。一方で、居眠りをする生徒、教室の整理整頓は毎回同じ生徒、同じ教室である。個別指導やクラスの問題として捉えてクラスで話し合うなど、学校全体や学年全体で手立てを講じる必要がある。	B	・順心生としての規律は問えも大切。根気よく指導されることを望みます。 ・時には順心の基本にかえり、規則等の話をクラス全体で再確認してみてもどうですか。 ・学校を卒業してから問われることだからこそ、大切な指導だと思います。根気。 ・決して寝ていい場ではないので、意識集中し、しっかり感想が書けてHRで活用ができるように頑張つて欲しいものです。 ・大体の生徒が藤枝順心生として行動していると感じます。
		(2) 具体的指標 講話の聴き方や態度、移動時の行動が7割の生徒にしっかりと身についており、校内巡視を通しての教室の整理整頓が 8割以上徹底されている : A 6割以上8割未満徹底されている : B 6割未満 : C				
3 社会生活 に適応する力の育成	違反行為 問題行動の防止と指導	(1) 具体的方策 違反行為や問題行動は1報で情報共有し、生徒指導課会議において指導方針について協議し、校長の指示を仰ぎ実施する。 (2) 具体的指標 生徒全員が安心・安全な校内生活を送れることを目指す。 違反行為や問題行動を未然に防ぐように校則の確認をHRや長期休業前に必ず行い、規範意識の向上を目指す。 謹慎以上は10件以内、戒告は20件以内 : A 謹慎以上15件以内、戒告30件以内 : B 謹慎以上16件以上、戒告31件以上 : C	A	・後期は戒告が7件プラスされた。年間で謹慎1件、戒告10件であった。数字的にはAである。しかし規範意識が向上しているとは言えない。謹慎や戒告になることはしないが、小さな決まりは守らないという傾向にあり、指導がしっかりと全生徒に伝わっていない。どんな場面で、どのように指導していくのが良いか検討し、教員間の指導の統一を図りたい。	A	・順心中学・高校の生徒指導のあり方を、先生方が皆共通認識を持ち指導する。小さな決まりでも守らない場合、早くからきちんと指導する。 ・18歳で大人になるため、それまでに高校生であっても違反行為や問題行動があったら、それに応じて処罰があることをきちんと理解させないとけないと感じます。見つからなければいいのではなく、しないということを家庭でもきちんと教育しなければと思います。 ・今後は生徒の規範意識の向上のためのご指導を根気よくお願いします。 ・謹慎も違反も成長過程であるなら良いと思います。どう指導し、それがどう生徒に響くかで、卒業後に生きてくると思います。それが私学の良さだと思います。

重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を 評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
4 自己管理 の育成	実態に即 した保健 教育の実 施	(1) 具体的方策 健康診断の実施、事後措置等を通して、生徒及び教職員の健康の保持増進を図り、感染症の状況等、実態に即した健康教育を実施する。	A	・クラスや学年によってばらつきはあるものの、2.3～4.7%であり、全体では欠席率3.5%であった。昨年同様、不登校の生徒が数名おり、季節の変わり目に体調を崩す生徒が多く、また、大事をとって休むという家庭が増えたことで、感染拡大にはつながらなくなったかもしれないが、休む生徒はその分増えている。 ・さくら連絡網を活用し、季節の変わり目や欠席が増加傾向にある場合など、家庭への注意喚起を行った。	A	・感染拡大につながらないために、注意喚起を行うツールとしてさくら連絡網を活用していただけると大変把握しやすいです。保健だよりのようなお手紙での通知は、子供から親の手元に届かないことがしばしばあります。 ・保護者としても学校内での様子を知ること、より一層健康管理への意識が高まります。 ・公衆衛生の意識を高くもたせての生活の結果だと思います。これからも継続して良好な学校生活を希望します。
		(2) 具体的指標 健康診断結果を通して健康状態を把握させ、保健だよりを通して時期に合わせた情報を提供し、感染症が流行する前には、注意喚起を行う。欠席率が全体で 5 %未満 ： A 5 %以上1 0 %未満 ： B 1 0 %以上 ： C				
	健康相談 の充実と 情報共有	(1) 具体的方策 健康相談の充実を図り、生徒の支援を行う。担任等と情報共有、必要に応じスクールカウンセラーとの連絡を密に行い、生徒の学校生活がよりよいものとなるようにする。	B	・直接関わるわけではないからこそ、スクールカウンセラーに吐き出すことができ、気持ちの安定へとつながっている。 ・Fujieda junshin checkで、先生に相談する生徒数が、前期に比べ多少であるが増加した。引き続き、日頃の声掛けや変化を見過ごさない教員の観察力を高めていきたい。 ・カウンセラーへの相談件数は増加傾向にあるが、継続する生徒と1～数回で終わる生徒と半々であった。保健室や部活顧問など、担任だけでなく関わりのある職員に相談するケースも多く、職員間の情報共有をより密に行っていきたい。	B	・年頃でもあるため、身近な方よりも第三者であるカウンセラーに聞いてもらえた方が心の安定につながるのではないかと思いますので、ぜひ継続していただきたいです、 ・最近の若者はデリケートであると思います。これくらいは大丈夫と思っている指導、言葉に傷つき、自分で抱えこんでしまっている者が多いように思います。思春期がコロナ禍であった若者なので、尚更かもしれません。10人いれば、10人の接し方があると思いますが、これまで同様、生徒に寄り添ってほしいと思います。 ・子供たちはスクールカウンセラーが誰なのか、いついるのかも知らない状態でした。プリント等で知らせていただいているのだと思いますが、生徒にもっとわかりやすい、相談しやすい状況でないと、子供たちが安心感を得られないのではないかと感じます。
		(2) 具体的指標 学期終了時に生徒指導課の反省表 教育相談項目にて、教員（スクールカウンセラー含）に相談できる生徒が 4 0 %以上 ： A 1 0 %以上4 0 %未満 ： B 1 0 %未満 ： C				
5 積極的な 情報発信	HP・SNS の活用	(1) 具体的方策 ホームページ・インスタグラムを通じて積極的な情報発信に努める。 (2) 具体的指標 体験入学時にアンケートを実施し、情報発信が充実していると感じる方が8 0 %以上を目標にする。 8 0 %以上 ： A 7 0 %以上 ： B 7 0 %未満 ： C	B	体験見学会時のアンケートで「ホームページを利用したか」という質問に対し、「閲覧した。情報を得られた」と答えた方が、7月が8 8 %、8月が8 4 %と、8 0 %を越えた。ただ、質問の仕方が曖昧であったので、「充実しているか」というとまだ不十分な点も多い。受験生からは部活動の詳細な情報を望む声が多いので、渉外課の広報活動と足並みをそろえ、各部活動のインスタを充実させてイベント参加などの情報も載せて発信していきたい。	B	・受験生やその保護者は順心の情報を得るために、ホームページやインスタグラムをよく見ていると思いますので、更なる充実を望みます、 ・体育大会やしらうめ祭といったイベントを写真やコメントなどたくさん掲載して、生徒が楽しむ姿をアピールしてもいいのではないかと思います。イベント参加の情報も盛りだくさん発信していただきたいです。 ・自分の子供をインスタで見ると、とてもうれしいです。学校生活を楽しんでいるなど安心します。
6 危機管理 意識の高 揚	体験型防 災訓練の 実施	(1) 具体的方策 各種の体験型防災訓練を実施し、生徒及び職員の危機管理意識を高める。 (2) 具体的指標 防災訓練後にアンケートを実施し、「役に立った」と感じる生徒・職員が8 0 %以上を目標にする。 8 0 %以上 ： A 7 0 %以上 ： B 7 0 %未満 ： C	A	前期は地震を、後期は火災を想定した避難訓練を計画して自衛隊に運営を依頼し、体験型の講座を柱にして実施した。生徒に防災訓練を通じての危機管理意識の変化を問うアンケートを行った結果、非常に高まった49.5%、高まった46.0%、あまり高まらなかった4.2%、全く高まらなかった0.3%という結果だった。来年度は生徒指導課と連携し、不審者対策の防犯講座を実施したい。校内の危険箇所も各管理責任者に必ず点検をするよう依頼していく。	A	・いつ、どこで、災害が発生するかわからない時代です。体験型の方が、本当に発生した時に落ち着いて行動できると思います。 ・自衛隊の運営による体験型の講座であれば、危機感が高まり、このような状況での訓練を重ねることで、危機管理意識を高めていくことができるのではないのでしょうか。